第十九講・世界一美しいぼくの村②

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

「いやあ、このヤモのおかげですよ。何しろ、上のむすこが戦争に行ってましてね。」

「それは、心配ですな。南の方の戦いは、かなりひどいというし。」

「来年の春には帰ると言ってたんですがね。」

ヤモはお茶を飲みながら、父さんたちの話を聞いていました。ハルーン兄さんならだいじょうぶ、きっと春には元気に帰ってくると、①ヤモは信じていました。でも、②何だかむねがいっぱいになってきました。

そんなヤモを見て、父さんが言いました。

「③後でびっくりすることがあるよ。」

「え？　何、何。教えて。」

「さあ、その前にもうひと仕事。残りのすももを売ってしまわなくちゃ。」

ヤモは、最後に残ったさくらんぼを大切に食べると、おじさんにさよならを言って、チャイハナを出ました。

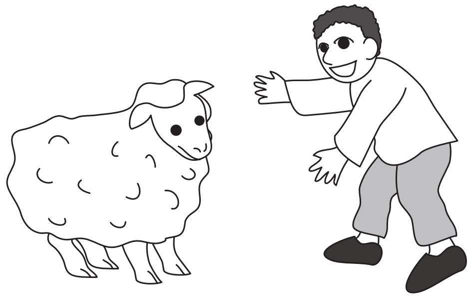
広場のモスクから、おいのりの声が流れてきます。ヤモは、すももを売りながら、ずっと父さんの言ったことを考えていました。

ようやく、すももも全部売れました。

「さて、それじゃあ、びっくりする所に行くとするか。」

父さんは、まっすぐ広場を横切っていきます。

そこは羊の市場でした。父



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

さんは、もうけたお金を全部使って、真っ白な子羊を一頭買いました。ヤモのうちの初めての羊。こんなきれいな羊は、村のだれも持っていません。

「さあポンパー、家へ帰ろう。羊を見たら、きっとみんなおどろくよ。」

ヤモは、大喜(よろこ)びで村へもどってきました。たった一日いなかっただけなのに、とてもなつかしいにおいがします。

「パグマンはいいな。④世界一美しいぼくの村。」

ヤモは、そっとつぶやきました。

〈小林豊(こばやしゆたか)「世界一美しいぼくの村」より〉

---

(1)　――線①「ヤモは信じています」とありますが、ヤモは何を信じているのですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(2)　――線②「何だかむねがいっぱいになってきました」とありますが、このときのヤモの気持ちとしてふさわしいものを次の中から三つ選び、記号で答えましょう。

ア　心配　　**イ**　感動　　**ウ**　さびしさ

エ　楽しみ　　**オ**　悲しみ　　**カ**　喜び

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3) ――線③「後でびっくりすることがあるよ」について答えましょう。

① この言葉をお父さんが言ったときの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア ヤモをおどろかせたい。

イ ヤモを元気づけたい。

ウ ヤモをこまらせたい。

② 「びっくりすること」とは、何だったのですか。

(4) ――線④「世界一美しいぼくの村」と、ヤモはどういう意味をこめて言っているのですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア すももやさくらんぼなどがたわわに実る、ゆたかな自然(しぜん)に包(つつ)まれた村。

イ たくさんの家族にかこまれて幸せに生きられる、心の中だけに残っている村。

ウ ゆたかで美しい自然と、家族や村人の愛(あい)にみちた心のやすらぎの村。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。**

サーカスが次の町に着いたとき、ミラドーは団長（だんちょう）さんに、①長い間考えていたことを話しました。

「ぼく、パグマンに帰ります。」

「そうか、そうするか。」

団長さんはうなずいて、だまって海を見つめました。

その夜、サーカスのみんながミラドーのお別（わか）れパーティを開いてくれました。団長さんは自分のマフラーを、ミラドーの首にまいてくれました。ミラドーは、自分の荷物の中に、町で買ってきた作物の種（たね）をいっぱいつめました。

そして、とうとう音が出なくなってしまったお父さんの笛を大切にしまいました。

次の日の朝早く、ミラドーは東へ向かう列車に乗りこみました。かたにかけた②黒いかばんの中には、ヤモへのおみやげがつまっています。ヤモに会うときのことを思うと、心がうきうきしました。

列車からバスに乗りついで、小さな町に着きました。バスもこの町で終点です。ここから先は歩くしかありません。

村をすぎ、森をぬけ、おかをこえて歩きました。ミラドーは、雨がふり、風がふいても、歩き続（つづ）けました。ヤモのことを思うと、③自然に足が前に出ます。平原の真ん中にある町を通り、山へ向かう道を進みます。ミラドーは、ひたすら歩き続けました。

そんなミラドーを見て、牛の世話をしている女の子がしぼりたてのミルクをくれました。羊かいの少年は、

「この先はあぶないよ。兵隊（へいたい）や山（さん）ぞくがいるし、暗くなるとオオカミも出るよ。気をつけてね。」

と言って、ミラドーに自分のつえをくれました。

日がくれると、辺（あた）りは急に寒くなります。ミラドーはつかれて、心細くなってきました。おなかもぺこぺこです。遠くにたき火の明かりが見えました。

「こわい人たちだったら、どうしよう。」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ミラドーは、おそるおそるたき火に近づきました。

すると、

「寒かっただろう。さあ、火に当たりなさい。」

「おなかがすいているでしょう。パンとスープがありますよ。」

男の人と女の人が、あたたかく声をかけてくれました。ミラドーはほっと安心して、④急に力がぬけました。

「おじさんたちはどこへ行くの。」

「わたしたちはこれから自分の村へ帰るんだよ。戦争で、何もかもなくしてしまったからね。畑を作って、また、一からやり直しさ。」

男の人はそう答えると、月に向かって笛をふき始めました。その音色（ねいろ）は、遠くの山にこだましていきました。

よく朝、男の人はミラドーの手に自分の笛をにぎらせて、言いました。

「気をつけて行くんだよ。わたしは今、君に何もしてあげることができない。せめて、⑤この笛をあげよう。」

その笛は、お父さんの笛と同じにおいがしました。

ミラドーはまた歩き始めました。この山をこえれば、パグマンの村まではあと少しです。

〈小林豊（こばやしゆたか）「世界一美しい村へ帰る」より〉

(1)　――線①「長い間考えていたこと」とありますが、だれがどんなことを考えていたのですか。

（　　　）が、（　　　）こと。

(2)　団長さんは、旅立つミラドーに何をしてくれましたか。

（　　　）を（　　　）くれた。

(3)　――線②「黒いかばん」には、何が入っているのですか。あてはまるものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

ア　作物の種
イ　お父さんの笛
ウ　ヤモへのおみやげ

（　　）

(4)　ミラドーは、ヤモに会うときを想像(そうぞう)すると、どんな気持ちになったのですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

（　　　）

(5)　村をすぎ、森をぬけ、おかをこえて歩くミラドーが、どんなじょうきょうでも歩き続けている様子が分かる一文を、文章中からぬき出しましょう。

（　　　）

(6)　――線③「自然に足が前に出ます」とありますが、なぜですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　風におされているから。
イ　早く安全な所に着きたいから。
ウ　早くヤモに会いたいから。

（　　）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(7)　歩き続けるミラドーに、「牛の世話をしている女の子」と「羊かいの少年」は何をくれましたか。それぞれ答えましょう。

「牛の世話をしている女の子」

「羊かいの少年」

(8)　――線④「急に力がぬけました」とありますが、なぜ力がぬけたのですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　おなかがすいていて、やっとご飯にありつけると思ったから。

イ　こわい人たちではなく、やさしい人たちで安心したから。

ウ　もう歩き続けなくてもいいんだと思ったから。

(9)　――線⑤「この笛をあげよう」と言って男の人がくれた笛は、ミラドーにとってどんなものでしたか。

もの

(10)　このお話では、歩き続けるミラドーに、多くの人々がいろいろなものをくれています。かれらは、それらにどんな気持ちをこめていると思いますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　自分にはできないことだからがんばってほしい。

イ　無事にパグマンの村へたどり着いてほしい。

ウ　早くパグマンの村へ行ってしまってほしい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講・確認テスト

次の文の二重傍線部が修飾している箇所を選びなさい。

1 君の　アランドセルは　イどこに　ウ忘れて　エきたのですか。

2 その　ア大きな　イ箱には　ウ何が　エ入っているの？

3 黒の　ア大きな　イぼうしが　ウ風で　エとばされてしまった。

4 交差点で　アトラックと　イ青い　ウ自転車が　エ止まっている。

5 ぼくの　アゆめは　イ宇宙飛行士になって　ウ宇宙へ　エ行くことだ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講　世界一美しいぼくの村②

一題目

(1)(例)(ハルーン兄さんならだいじょうぶ、)きっと春には元気に帰ってくるということ。
(2)ア・ウ・オ
(3)①イ
②(例)市場で、子羊を一頭買ったこと。
(4)ウ

二題目

(1)ミラドー(が)パグマンに帰る(こと。)
(2)自分のマフラー(を)(ミラドーの首に)まいて(くれた。)
(3)ウ
(4)(例)心がうきうきした。
(5)ミラドーは、雨がふり、風がふいても、歩き続(つづ)けました。
(6)ウ
(7)「牛の世話をしている女の子」…しぼりたてのミルク
「羊かいの少年」…自分のつえ
(8)イ
(9)(例)お父さんの笛と同じにおいがする(もの)
(10)イ

〈確認テストの解答〉

1　ア　2　イ　3　イ　4　エ　5　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。